

鳴門市の今後の学期制のあり方について

1. はじめに

鳴門市では、平成17年度から幼稚園、小・中学校で2学期制を導入しています。導入当時、2学期制の効果として期待されたのは、

- (1学期あたりの) 評価期間が長くなり、児童・生徒の適正な評価やきめ細やかな指導が可能になる。
- 始業式・終業式の減などで年間20時間以上の授業時数が確保できる。
- 長期休業日を活用し、各校(園)が学力補充や体験学習を実施するとともに、休業日前後のつながりを持たせることで、学びの連続性を確保できる。
- 7月・12月の学校行事の過密化解消など、教職員の業務負担が軽減できる。

などであり、導入から10年以上が経過した現在、2学期制は本市の教育現場や家庭において定着している状況にあります。

こうした状況の中、平成28年度に策定した第二期鳴門市教育振興計画においては、2学期制導入から10年以上が経過していること、また、小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から、新学習指導要領が本格実施されることを見据え、2学期制の目的や効果について再評価することとしていました。

そこで、2学期制の成果を検証し、今後の学期制のあり方について検討するため、有識者・学校関係者等で組織する「鳴門市学期制検討委員会」において、平成29年度、保護者・教職員を対象としたアンケート調査が実施されました。その結果を受けた議論を経て、学期制のあり方について一定の方向性が示されたところです。

こうした経緯を踏まえて、今年度、学校関係者にて構成される「鳴門市学期制のあり方検討委員会」での議論などを経て、今後の本市における学期制のあり方を決定するものです。

2. 「鳴門市学期制検討委員会」にて示された方向性

平成29年8月、学期制のあり方を検討するため、有識者・学校関係者等で組織する「鳴門市学期制検討委員会」を設置しました。

検討委員会において、2学期制の成果を検証し、今後の学期制のあり方を検討するためにはアンケート調査を実施する必要があると判断し、平成29年10月に保護者や学校関係者を対象に「学期制に関するアンケート調査」を実施し、アンケート調査の実施結果について検証を行い、以下の通り総括しました。

《 アンケート調査結果(概要) 》

(1) 3学期制が望ましいと回答した主な理由

- 気持ちの切り替え
- 通知表の回数
- 季節と学校生活の調和
- 長期休業日の位置づけ

(2) 2学期制が望ましいと回答した主な理由

- 授業時数の確保
- 教員の業務負担軽減

◀ 鳴門市学期制検討委員会における総括 ▶

- 「3学期制が望ましい」と回答した保護者の割合が約51%であり、この割合を受け、即3学期制へ移行するという判断はしにくい、現時点での結果として重く受け止める必要がある。将来に向けて、より具体的な研究、検討を進めていくことが望ましいのではないかと。
- 「2学期制が望ましい」と回答した教員の割合が約67%であり、現場では3学期制よりゆとりを持ちやすい2学期制への支持が多く、学期制のあり方を検討するにあたっては、教員の多忙化解消について並行して取り組んでいくべきである。

3. 「2学期制継続」にあたってのメリット・デメリット

次に、前述のアンケート調査結果や、小・中学校長会、鳴門市学力向上推進委員会からの聞き取り結果等から、現行の2学期制を継続した場合のメリット・デメリットを、以下のとおり整理しました。

(1) 2学期制継続におけるメリット

- 小学校の新学習指導要領実施に伴う授業時数の増加(小学3年生～6年生で年間35時間の増加)に対応しやすい。
- 授業時数を確保しながら、「アクティブラーニング」「プログラミング教育」等の新課題に対する研究授業・校内研修の実施など、教職員の自己研鑽にあてる時間も取りやすくなる。
- 時間的にゆとりのある夏休みに個人懇談や三者面談を実施することが可能となり、夏休みの過ごし方、将来に向けての取組等について、じっくりと話をすることができる。
- 中学校では、部活動の集大成である総合体育大会に向けて、練習とテスト休みの重複を避けることができ、コンディションを整えやすい。
- (中学3年生の場合、) 12月に入試に向けた調査書の作成準備に時間をあてることができ、生徒一人ひとりに向き合う時間が確保できる。

(2) 2学期制継続におけるデメリット

- 通知表の回数が減ることで、保護者が学校生活の様子を把握しづらくなる。
- 夏休み前に通知表を受け取らないため、子どもが学校生活について客観的に振り返ることが難しく、夏休みの計画を立てにくくなってしまう。

4. 「3学期制移行」にあたってのメリット・デメリット

続いて、3学期制に移行するとした場合のメリット・デメリットを、以下のとおり整理しました。

(1) 3学期制移行におけるメリット

- 夏休み前に通知表をもらうことで課題がはっきりとして、気持ちを切り替えて夏休みを迎えやすい。
- 保護者にとっても、夏休み前に通知表を受け取ることで、進級後の学校生活や学習面の様子を把握しやすい。

(2) 3学期制移行におけるデメリット

- 通常、通知表を渡す前に個人懇談を行うことから、結果的に個人懇談を夏休み前に行わざるを得ず、授業時数が減ってしまう場合がある。
- 夏休み前に成績処理、通知表の作成、個人懇談の準備等が重なり、子どもと向き合う時間が減ってしまう。

5. まとめ

「鳴門市学期制検討委員会」による総括を踏まえ、近年の教員の働き方を巡る状況も考慮しながら、本市の今後の学期制のあり方について検討した結果、現時点における本市の判断として、**当面の間、「3学期制のメリットを取り入れた2学期制」を実施していくこととします。**

まず、教員の働き方の観点からは、近年、教員の過重な業務負担の実態が社会問題化し、その解消を図るために「変形労働時間制」の導入を柱とする法律が昨年12月に可決・成立するなど、国全体で教員の働き方改革が進行しつつある中であって、「**授業時数の確保**」や「**教員の業務負担**」の面で優位性がある「**2学期制**」を見直すことは現実的ではないと判断しました。

しかしながら、「3学期制移行におけるメリット」として多数の方が挙げた「**長期休業日前に通知表をもらうことで、子どもにとって課題が明確になり、気持ちを切り替えることができる。**また保護者にとって**進級後の学校生活や学習面の様子を把握しやすくなる**」とのご意見については、何らかの手続きとして具体化する必要があると判断したことから、

- 小学校では、夏休み開始時期に通知表に代わる「連絡表」等を出すことによって、進級後の学校生活や学力面での様子について知りたいという保護者の要望に応える。
- 中学校では、夏休み開始時期に「当該学年の実力テストの結果」を保護者に資料として提供する。

などの取組を、**来年度から本市全ての小・中学校で、統ルールとして実施することとしました。**

令和2年度からは小学校で、令和3年度からは中学校で、新学習指導要領に基づいた新しいカリキュラムがスタートしますが、教師が子どもと向き合う時間を少しでも多く確保しながら、「アクティブラーニング」「プログラミング教育」などの新しい取組や「いじめ問題」「学力向上」などの喫緊の課題にも柔軟に対処できる教育環境を実現するため、来年度より「3学期制のメリットを取り入れた2学期制」に対応したカリキュラム編成を各小・中学校において行い、本市の未来を担う子どもたちの育成に取り組みます。